

ぴーぴる

さいたま市建設局
下水道部 ながさわ ふじお 氏
下水道維持管理課長 長澤不二夫氏



—これまでの経歴は

昭和50年に与野市に入庁し、下水道の設計や現場監督、事業認可変更、都市計画変更などを担当しました。当時は、全国で3番目の普及率100%達成に向けて、事業の絶頂期でもありました。昭和63年からは、埼京線北与野駅前市街地再開発事業の土木部門全般を担当し、下水道、道路、駅前広場、公共地下駐車場事業の計画から完成までを携わりました。その後、さいたま市の誕生を控えて古巣の下水道課へ戻り、以降計画部門を担当し、本年4月より維持管理部門の担当となりました。

—現在の担当業務は

本市は、3市の合併による誕生から政令指定都市への移行、岩槻市の合併を経て、ようやく市の規模が確定し、歯車が回り始めました。そこで、市の総合振興計画、都市計画マスタープランの方向性が見定まったことから、下水道長期ビジョンを計画する好期を迎えています。現在、関東甲信地方下水道ビジョン策定に係わった経験を生かし、学識者による懇談会の助言をいただきながら長期計画策定の作業を進めているところです。

—本機構と行った仕事、本機構の事業活動についての意見をお聞かせください

平成14年度から細井先生が委員長を務める第4審査証明委員会委員の任命を受け今日に至っています。審査証明は、平成14年度の22件から年々増加し、昨年度は45件となっています。これは、企業から熱い視線が向けられている結果であり、今後も新技術開発が下水道事業の発展に繋がることと期待しています。

また、下水道機構の技術サロンでは、本市のマンホール性能規定をはじめ、皇太子殿下が第4回

世界水フォーラムでご発表された見沼通船堀や立原道造とヒヤシンスハウスについてプレゼンさせていただきました。

—これまでで思い出に残る仕事

化学の苦手な私にとって、凝集・中和・消毒用の化学薬品を知る良い機会と考え、高校時代の参考書「化学ⅡB」を探し出して化学反応式に挑戦することがあります。すると凝集剤のポリ塩化アルミニウム溶液と消毒用の次亜塩素酸ナトリウム液が混合すると塩素ガスが発生することが判明しました。狭隘なプラント内では、取り扱い方によって液が漏れて混合する可能性があることが分かり唖然としたものです。

設計では、換気用のダクト位置が天井にあったため、重い塩素ガスの排気効果を考えて床面に変更させ、溶液の管理も徹底することができました。作業員の安全性を迫及した結果から思わぬ化学の勉強ができたと思っています。この経験から、分からないことは人任せでなく自分なりに探求することが必要で、またそこから新しい発想ができるものだと実感しました。

—今後の抱負をお聞かせください

下水道は重要な社会インフラであるにもかかわらず、いまひとつ社会の中で関心が薄く、埋没している感があります。メディアを利用した下水道の情報発信が不足していると思うのですが、自治体では予算が捻出できない分野でもあり、是非今後の下水道機構の事業の中で、メディアを使った情報発信をお願いしたいと思います。その際には、微力ながら協力していきたいと考えています。